２０２５年度

武蔵野高等学校
一般入試
学力試験問題

国　語

注意

１．試験開始の指示があるまで問題を開いてはいけません。

２．試験時間は 50 分です。

３．解答はすべて解答用紙の定められた欄に記入しなさい。
　　また，字数制限のある問いに関しては句読点も字数に含みます。

４．受験番号，氏名を解答用紙の定められた欄に記入しなさい。

受験番号	氏　　名

一　次の問いに答えなさい。

問一　傍線部のカタカナを漢字に直しなさい。

①　カかさず出席する。　②　海底までの水深をハカる。　③　コンニュウ物を取りのぞく。

④　タンジュンに思い違いをした。　⑤　抽選の結果にはサクイを感じる。

問二　傍線部の漢字の読み方をひらがなで答えなさい。

①　直ちに中止する。　②　公約を掲げる。　③　体裁を整える。

④　野鳥用に巣箱を置く。　⑤　ユーモアは円滑なコミュニケーションに欠かせない。

問三　次の①～③の（　　）の意味になるように、□に入る言葉を漢字一字で答えなさい。

①　竜頭□尾（初めは勢いが盛んだが、終わりは振るわないこと）

②　付和□同（しっかりとした考えがなく、他人の言動に安易に同調すること）

③　明□止水（澄み切って落ち着いた心のこと）

問四　熟語には、「音・音読み」「訓・訓読み」「音・訓読み」「訓・音読み」の四つの読み方があります。次の①・②と熟語の読み方が同じものを、あとのア～エの中から一つずつ選び、記号で答えなさい。

①　株券

②　目頭

ア　母音　　イ　夕刊　　ウ　朝方　　エ　台所

問五　次の文を文節に分けたものとして最も適切なものを、あとのア～オの中から選び、記号で答えなさい。

○姉はよく音楽を聞きながら料理をしている。

ア　姉は／よく音楽を／聞きながら／料理を／している。

イ　姉は／よく音楽を／聞き／ながら／料理を／している。

ウ　姉は／よく／音楽を／聞きながら／料理を／して／いる。

エ　姉は／よく／音楽を／聞き／ながら／料理を／して／いる。

オ　姉は／よく／音楽を／聞きながら／料理を／し／て／い／る。

二　次の文章を読み、あとの問いに答えなさい。

上野村の若い農民たちに言わせると、この村は水田が一枚もなく、農地の狭いことが幸いしたのだという。それがゆえに、戦後の農業政策は、上野村を相手にしなかった。稲作の近代化も、畜産団地づくりも、果樹や野菜の産地形成も、村の外でのできごとであった。すなわち①農業に労働時間の経済価値を確立しようとする農業近代化は、この村では実現しなかったのである。

それは結果として伝統的な農民の暮らしを持続させた。まずもって農業は自家消費用の作物をつくるために営まれる。第二にその作物は山村社会のなかで分配される。【ア】そしてそのうえで換金作物がつくられる。とともに暮らしは所得の範囲内で営まれるのである。一労働時間あたりの所得がいくらになるかは計算されていない。集落機能が維持され、伝統的な農業と暮らしの関係が守られていれば、少ない所得でも暮らせるのが伝統的な農村である。すなわちここでは、労働時間に経済的な価値を求める近代的な営みとは異なって、作物を育てながら暮らす農家の②伝統が持続された。

いまの上野村の若い農民たちは、この③伝統的な労働と暮らしの関係に、都市とは異なる山村の文化をみいだしてきた人々である。だから彼らの目には、耕地の狭いことが、つまり農業の近代化をとげようもなかったことが、かえって山村的な労働と暮らしのかたちを維持させてきたように映る。

確かにそうなのであろう。だが近代的な時間価値とは異なる時間世界のなかで生きることは、農民たちに多くの困難を強制してきたことも確かなのである。【イ】それは急速な村の過疎化をすすめ、今日では近代的な時間価値に意識的に対抗する者と、もはや時計の時間の世界から離脱することを許された高齢者たちによって、この村の農業は担われるようになってきた。

かつて私は、その職業ごとに独特の雰囲気をもった人々がいるのはなぜだろうと思っていた。以前は農民は農民らしく、商人は商人らしく、職人は職人らしかった。おそらくそれは、その職業につく人間たちが、それぞれに独特な存在のかたちをもっていたからであろう。そしてその存在は、その職業とともにある時間世界の固有性と結ばれていたに違いない。

ひとつの社会のなかには、多様な時間世界が展開していた。そしてその時空の移動は、多くの場合容易なことではなかった。

春になると私は上野村の村人と一緒に、近くの村に山菜採りにでかける。【ウ】そこにはヤマウドなどがたくさん芽生えていて、カッコウやウグイスの鳴き声を聴きながら山歩きをするのは、村人たちの楽しみでもある。昼になると村人は森の木陰で弁当をひろげ、子供のようにはしゃいでいる。

その間にも森から見下ろす畑の上では、春の耕作をすすめる隣村の人々の姿がみえる。それは④上野村とは全く異なる農業である。山の裾野は広大に開墾され、大型トラクターが動いている。高冷地の野菜専用の農地、その光景をみると上野村の人々も感嘆の声をあげる。三反もあれば大百姓といわれ

る上野村とは違って、ここでは一区画が一ヘクタールをこえるような農地が切り拓(ひら)かれている。

「この村の人たちは偉いものだ」

そう言いながら上野村の人々は、この村の農民たちを賞讃(しょうさん)する。

ところが毎年同じように感嘆しているのに、⑤上野村の人々は少しもこの新しい農業を真似(まね)しようとはしない。村に帰れば、村人は鍬(くわ)や鋤(すき)を使った伝統的な山村農業に従う。もちろん真似をしようにも傾斜のきつい上野村では、同規模の農地を造成することは不可能なのだけれど、それでもその気になれば開墾可能な場所もないではない。何よりも、この村では上野村の農民の平均所得の百倍をこえる粗収入のある農民が多数いることを、上野村の人々も知っているのにである。

おそらく毎年感嘆の声をあげるだけで終わってしまうのは、上野村とこの村の農業の間には、根本的に違う営農の世界があることを、上野村の人々が知っているからであろう。上野村の農業は伝統的な畑仕事として展開している。季節の循環とともに作物をつくり、その作物を利用して村人もまた循環する季節とともに暮らしている。ところが隣の村でおこなわれている農業は、農業経営なのである。ここでは農地が商品の生産工場になっている。農民は大地に投資をし、そこを商品の生産工程に変えた。

上野村の畑では作物をつくり、毎年同じ季節を迎えることに価値があるのに、この村では労働時間のつくりだす経済価値がすべてである。とともにこの相違は農業のかたちだけでなく、暮らしのすべての面にあらわれてくる。

[　　]上野村の人々にとっては、夕方の釣りも、春の山菜採りも、秋の茸狩(きのこが)りも、村人としての営みの流れのなかにある。その季節が戻ってくれれば、村人はその仕事をし、夕方が戻ってくれれば川に竿(さお)を出す。【エ】ところが時計の刻む時間が価値を生む世界に身を置いた瞬間から、そのすべての関係が崩れ去ってしまうだろう。時間は経済価値を生む時間と生まない時間に分裂する。そして経済価値を生まなくなった時間には、別の意味が付与されなければならなくなるだろう。

その意味とは、充実した生活かもしれないし、休息や余暇かもしれない。それにどんな意味を与えようとも、こうして時間は管理するものへと変わり、それは時間に管理されることと一対の関係になる。【オ】

伝統的な山村の暮らしのなかでは、時間は終(おわ)ることも、区切られることもなく循環していた。仕事も暮らしも、その隙間にあらわれるアソビも、すべてが途切れることなく山里の時間世界のなかを流れていた。そしてその時間の流れが、そのまま村人の存在であった。

ところが⑥時間を管理し、時間に管理されるようになった瞬間から、時間は人間の存在から外化する。時間は時計の音とともに客観的に動きつづけ、この時間にいかに対応していくかが人々につきつけられる。かつては農民の営みとともに時間がつくられていたのに、いまでは時間にいかに対応してい

くのかが、農民の営みになった。

上野村の人々が「先進的」で近代化された農業経営の様子に感嘆の声をあげながら、けっしてそれを真似しようとしないのは、時計の時間が価値を生む社会への転換が、山村の暮らしや人々の意識のすべてを変えてしまうことを知っているからであろう。少なくともそこに自分たちの存在のかたちがないことを、村人たちは知っている。

春になれば山菜採りに遊び、秋になれば茸狩りに遊ぶ自分たちの前で、山に入ることもなく商品作物をつくりつづける隣村の農民たちは、自分たちのできないことをしている偉い人たちではあっても、自分たちと時間世界を共有している人々ではないのである。

⑦時間世界を変えることは、自分の存在を変えることであり、自分自身を別の人間につくり変えることである。

（『時間についての十二章―哲学における時間の問題』　内山節）

問一　傍線部①「農業に労働時間の経済価値を確立しようとする農業近代化は、この村では実現しなかったのである」とあるが、では、「上野村」ではどのように農業が営まれたのか。営まれた農業と関係の深いものを、次のア～ケの中から三つ選び、記号で答えなさい。

ア　労働時間に経済的な価値を求める農業
イ　近代的な時間の価値によって営まれる農業
ウ　季節の循環とともに営まれる農業
エ　休息や余暇のある充実した生活を送るための農業
オ　作物を育てながら暮らす農家
カ　畜産団地を形成しながら暮らす農家
キ　産地形成に懸命に取り組む農家
ク　稲作の近代化を図る農家
ケ　時計の時間の世界から離脱した農家

問二　傍線部②「伝統」の対義語を、次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　保守　　イ　継承　　ウ　躍進　　エ　革新　　オ　運勢

問三　傍線部③「伝統的な労働と暮らし」とあるが、これを説明した次の文の［　　］に入る語句を、（　　）内の字数指定に従って文中より抜き出して、それぞれ答えなさい。

最終的には［A］（四字）がつくられるが、農業の第一は［B］（八字）をつくるために営まれ、次にその作物は［C］（十字）される。また、［D］（六字）で暮らしは営まれる。

問四　傍線部④「上野村とは全く異なる農業」とあるが、隣村で行われている農業を説明した次の文の［　　］に入る語句を、（　　）内の字数指定に従って文中より抜き出して、それぞれ答えなさい。

大地を［A］（二字）の対象ととらえ、農業機械を使って［B］（七字）としての広大な土地を開墾し、［C］（十字）を行っている。

問五　傍線部⑤「上野村の人々は少しもこの新しい農業を真似しようとはしない」とあるが、それはなぜか。その理由がわかる部分を文中から五十二字でさがし、初めと終わりの七字を抜き出して、それぞれ答えなさい。

問六　［　　］に入る語句として最も適切なものを、次のア～オの中から選び、記号で答えなさい。

ア　ところが　　イ　なぜなら　　ウ　したがって　　エ　それゆえ　　オ　たとえば

問七　傍線部⑥「時間を管理し、時間に管理されるようになった瞬間から、時間は人間の存在から外化する」とあるが、どういうことか。最も適切なものを、次のア～オの中から選び、記号で答えなさい。

ア　人間が時計を使って日・季節を区切るようになったことで、その区切りに支配された生活をしなければならない存在になったということ。
イ　人間が時計の時間で生きるようになったことで、時間はお金に換算され、人間の行動を規定するという客観的な存在になったということ。
ウ　人間が時間というものを時計によって明確に意識し始めたことで、時間は人間の生活を効率化することのできる存在になったということ。
エ　人間が時計で時間を区切るようになったことで、時間は社会全体を管理する力を獲得し、人間を常時支配できる存在になったということ。
オ　人間の時間が自然の流れと切り離されたことにより、人間は自然界とは異なる時間の流れを過ごすことのできる存在になったということ。

問八　傍線部⑦「時間世界を変えることは、自分の存在を変えることであり、自分自身を別の人間につくり変えることである」とあるが、このように言えるのはなぜか。最も適切なものを、次のア～オの中から選び、記号で答えなさい。

ア　自分が生きている世界に対して疑問を持つことで新たな時間を生み出せるようになり、人生が変化するから。
イ　関わる社会を変えることにより、自分を見つめ直すことが可能になり、自分自身を変化させる契機となるから。
ウ　自分自身を別の人間につくり変えるためには何が必要であるのかを考えるようになり、新たな自分をみいだすから。
エ　新たな人生を歩むことが時間世界を変えることになるため、これまで積み上げてきた時間は過去のものになるから。
オ　時間に対する考え方を変えることで価値観が変化するため、自分の生き方やあり方も変えることになるから。

問九　次の一文は文中のある部分から抜き出したものである。戻す場所として最も適切なものを、文中の【ア】～【オ】の中から選び、記号で答えなさい。

もちろん畑仕事もこの循環のなかに組み込まれている。

問十　この文章の内容と合っているものを、次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　各地の村の過疎化の根本原因は、近代的な時間価値とは異なる時間世界を生きることへの無言の圧力に、多くの若者が負けたことにある。

イ　上野村の人々の暮らしは日本の原風景であり、そこには経済的価値を生まない労働に人生の意義をみいだす人々の姿を見ることができる。

ウ　かつての社会には職業ごとに特有の時間世界というものが存在し、それはその職業についている人の存在のかたちとつながっていた。

エ　上野村は他の山村から空間的にも時間的にも隔絶されていたため、他の地域とは異なる時間世界を維持し続けることが可能になっていた。

オ　本来区切ることのできない時間を区切ったことで人間は精神的・経済的豊かさを享受するようになったが、自然の豊かさは失われていった。

三　次の古文を読み、あとの問いに答えなさい。

過ぎにし秋の比、※1右兵衛の舎人なる者、東の七条に住みけるが、※2司に参りて夜更けて家に帰るとて、応天門の前を通りけるに、人の①けはひして※3ささめく。※4廊の脇に隠れ立ちて見れば、柱より※5かかぐりおるる者あり。あやしくて見れば、伴大納言なり。次に子なる人おる。また次に※6雑色とよ清といふ者おる。「何わざしておるるにかあらん」と②つゆ心も得で見るに、この三人おり果つるままに走る事限りなし。南の朱雀門ざまに走りて往ぬれば、この舎人も家ざまに行く程に、※7二条堀川の程行くに、「③大内の方に火あり」とて※8大路ののしる。見返りて見れば、内裏の方と見ゆ。走り帰りたれば、応天門の半らばかり燃えたるなりけり。「このありつる人どもは、この火つくるとて登りたりけるなり」と心得てあれども、人のきはめたる大事なれば、敢へて口より外に出さず。その後、「左の大臣のし給へる事」とて、「罪蒙り給ふべし」といひののしる。「あはれ、したる人のあるものを、④いみじき事かな」と思へど、言ひ出すべき事ならねば、いとほしと思ひありくに、「大臣許されぬ」と聞けば、罪なき事は遂に逃るるものなりけりとなん思ひける。

（『宇治拾遺物語』）

※1　右兵衛の舎人＝御所の門や天皇の警備などをする兵衛府に属する役人。
※2　司＝役所。
※3　ささめく＝ひそひそとささやく。
※4　廊＝廊下。
※5　かかぐりおるる＝しがみつきながらおりてくる。
※6　雑色＝貴族のもとで雑務を行う役人。
※7　二条堀川＝現在の京都市にある地名。
※8　大路＝朱雀大路。

問一　傍線部①「けはひ」を現代仮名遣いに直し、すべてひらがなで答えなさい。

問二　傍線部②「つゆ心も得で見るに」とあるが、この現代語訳として最も適切なものを、次のア～オの中から選び、記号で答えなさい。

ア　しばらく心のままに見ていたが
イ　なんとなく理由がわかって見ていると
ウ　少しも納得できないので見ていなかったが
エ　わずかに思い浮かぶことがあり見ていたが
オ　まったくわけを理解できず見ていると

問三　傍線部③「大内」とあるが、これと同じ意味の言葉を、古文中から漢字二字で抜き出して答えなさい。

問四　傍線部④「いみじき事かな」とあるが、このように思ったのはなぜか。次の文の［　　］に入る語句を、（　　）内の字数指定に従って古文中より抜き出して、それぞれ答えなさい。

A［　　］（三字）の火災の犯人は B［　　］（四字）ではないとわかっていたから。

問五　この話の中で教訓が書かれている部分を古文中から十六字でさがし、初めと終わりの三字を抜き出して、それぞれ答えなさい。

問六　この話の内容として最も適切なものを、次のア～オの中から選び、記号で答えなさい。

ア　伴大納言は真夜中に応天門に忍び込んだところを右兵衛の舎人に見つかったため、動転してしまい、慌てて逃げ去っていった。

イ　右兵衛の舎人は、仕事が終わり帰宅途中に人の気配や人が小声で話すのが聞こえてきたので、身をひそめて様子をうかがっていた。

ウ　普段は御所の周りの通りは深夜は人通りがなくひっそりとしているのに、右兵衛の舎人が朱雀大路を通った夜は人々が外で楽しげに過ごしていた。

エ　右兵衛の舎人は、夜更けまでに東七条の家に帰ろうと思い、南の朱雀門の前を通り、二条堀川を通って自宅に向かっていた。

オ　右兵衛の舎人は、応天門で起こった出来事を黙っていようと考えていたが、伴大納言に話のついでにうっかり話してしまった。

二〇二五年度　武蔵野高等学校　一般入試・学力試験　解答用紙　国語

受験番号	氏名

一

問一
①
②
③
④
⑤

問二
①
②
③
④
⑤

問三
①
②
③

問四
①
②

問五

二

問一

問二

問三
A
B
C
D

問四
A
B
C

問五
初め
終わり

問六

問七

問八

問九

問十

三

問一

問二

問三

問四
A
B

問五
初め
終わり

問六

二〇二五年度　武蔵野高等学校　一般入試・学力試験　解答用紙　国語

受験番号	氏名

一

問一
① 欠
② 測
③ 混入
④ 単純
⑤ 作為
2点×5

問二
① ただ
② かか
③ ていさい
④ すばこ
⑤ えんかつ
2点×5

問三
① 蛇
② 雷
③ 鏡
2点×3

問四
① イ
② ウ
2点×2

問五
ウ
2点

二

問一
ウ
オ
ケ
3点

問二
エ
3点

問三
A 換金作物
B 自家消費用の作物
C 山村社会のなかで分配
D 所得の範囲内
8点

問四
A 投資
B 商品の生産工場
C 近代化された農業経営
6点

問五
初め 時計の時間が価
終わり 知っているから
4点

問六
オ
3点

問七
イ
4点

問八
オ
4点

問九
【エ】
3点

問十
ウ
4点

三

問一
けわい
4点

問二
オ
4点

問三
内裏
5点

問四
A 応天門
B 左の大臣
4点

問五
初め 罪なき
終わり りけり
5点

問六
イ
4点